



ゆづりは

堺市立図書館だより

第16巻 第1号 (通巻58号)

発行日 令和3年6月20日

編集・発行 堺市立中央図書館

〒590-0801 堺市堺区大仙中町 18-1

電話 072(244)3811

FAX 072(244)3321

URL <https://www.city.sakai.lg.jp/kosodate/library/>

SDGs コーナー (美原図書館)

堺市は、持続可能な開発目標 (SDGs) の推進に取り組む「SDGs 未来都市」に選定されています。SDGs の取組には私たちそれぞれが協力できます。

美原図書館では、主に子どもに向けて、令和3年2月から「SDGs コーナー」を新たに設置、SDGs についてポスターやパネルでわかりやすく紹介しています。また、17ある目標を1つずつテーマとして取り上げ、未来を変えるヒントを教えてくれる本を集めた「SDGs ブックフェア」を開催しています。展示した本のリストを載せた冊子「SDGs ブックリスト」には、それぞれのテーマの説明や、楽しいクイズなどもつけています。



このコーナーでは、図書館で借りた本を入れる袋を忘れた人のために、不要になった紙袋を持ち寄ってもらったり、ペットボトルのふたを収集している社会福祉活動団体に寄付するための回収ボックスを設置したりするなど、気軽にSDGsに参加できる取組も行っています。今後もSDGsについてさまざまな情報発信をしていく予定です。詳しくは美原図書館にご来館、もしくはホームページをご覧ください。

(美原図書館ブックフェア担当)

SDGs とは、2015年の国連サミットで採択された国際社会の普遍的な目標で、持続可能な開発目標：Sustainable Development Goals の頭文字をとったものです。



「誰一人取り残さない」持続可能で、多様性と包摂性のある社会を実現するため、2030年を年限とする17のゴール、その下に169のターゲットが定められており、すべての国、あらゆるステークホルダーが取り組むべき目標とされています。

SDGs 未来都市とは、SDGs の理念に沿った基本的・統合的取組を推進しようとする都市・地域の中から、特に、経済・社会・環境の三側面における新しい価値創出を通して持続可能な開発を実現するポテンシャルが高い地域として、国から選定されるものです。



目次

- SDGs コーナー (美原図書館) … 1
- この本で解決!?
「つりしのぶ」の作り方・育て方を
知りたい。… 2
- あとで読む!
電子書籍の「しおり」機能 … 2
- シリーズ堺の人物
『曾我迺家五郎』 … 3
- 曾我迺家五郎 劇絵本
「一堺荘漫筆」のエピソード … 3
- 司書のイチ押し『陰翳礼讃』 … 4
- 堺市立図書館電話番号一覧 … 4

ゆづりは

とは...

中央図書館の正面玄関前に、堺生まれの詩人河井醉茗氏の歌碑があります。

年ごとに
ゆづりゆづりて
譲り葉の
ゆづりあとに
また新しく

この歌にちなみ、年月を経て、世代を超えても、次々に新しい情報をお伝えできるように、堺市立図書館だよりに「ゆづりは」と名づけました。



図書館に寄せられた様々な質問と回答を紹介します



「つりしのぶ」 の作り方・育て方を知りたい。



画像提供：
堺市都市緑化センター

つりしのぶとは、「忍草（しのぶぐさ）」を集めてその根をたばね、いろいろの形につくり、軒先などにつるして涼感をそえるもの（『日本国語大辞典』）で、しのぶ玉ともいいます。「シノブ」は岩の上や木の幹に付着して生育するシダの一種で、土がなくても育つ（＝耐え忍ぶ）ところから、「しのぶ」と呼ばれるようになったといわれています（『牧野日本植物図鑑』）。

作り方ですが、『検索入門しだの図鑑』（保育社）など関連本の記述を総合すると、①木炭やへゴ棒を芯にして水苔で玉状にくるむ②シノブの根茎を巻き付ける③針金やシュロ縄でしばる、という手順になります。育て方は、『四季の吊り鉢』（文化出版局）の「p.106シノブ」が参考になります。

つりしのぶは江戸時代より庶民の間で親しまれ、明治の文豪、夏目漱石や森鷗外の小説にも登場します。またつりしのぶが重要なモチーフとなった作品に、伊東静雄の「水中花」があります。伊東静雄は昭和11年から20年代にかけて、現在の堺市堺区や堺市美原区に居住した詩人です。

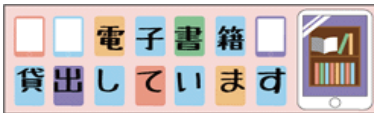
今歳水無月のなどかくは美しき軒端を見れば息吹のごとく萌えいでにける釣しのぶ…

哲学者の木田元は、芥川龍之介の詩「相聞三」とともに、「日本の六月をこれほど美しく歌った詩はほかに知らない」と記しています（『詩歌遍歴』）。



伊東静雄が住吉中学に勤務した頃だと思われる写真（個人蔵）

（美木多分館レファレンス担当）



あとで読む！ 電子書籍の「しおり」機能

「あとでじっくり読む」そんな時に使いやすいのが「しおり」機能です。本が表示されている画面の右上の「カード」をクリック（タップ）すると青い三角マークが現れます。

ページの外に余白がある場合、余白の右上です。スマホの場合、マークが現れるまで少し時間がかかります。

設定した「しおり」の一覧を確認するときは、「T字」ゾーンをクリックして現れる左上の「≡」メニューマークで「目次・しおり・メモ」を選びます。



「目次・しおり・メモ」画面が表示されるので、上部の「しおり」を押すと、保存した「しおり」の一覧が表示されます。目的の項目を押すと該当ページにジャンプします。



スマホ・タブレットの場合、ここをタップ！



「しおり」は機器を変えても有効です。通勤中にスマホでチェックした箇所を、帰宅後パソコンでじっくり読むといった使い方ができます。「しおり」は一つの電子書籍につき20個まで設定できます。ぜひご利用ください。

電子図書館の利用はこちら
<https://www.d-library.jp/SKI01/g0101/top/>

（中央図書館電子図書館担当）



シリーズ

堺
の人物

そがのや ごろう
『曾我廼家五郎』

曾我廼家五郎は、日本喜劇の創始者として活躍した喜劇役者です。NHK連続テレビ小説「おちよやん」でも彼をモデルにしたと思われる人物が登場していました。『曾我廼家五郎自傳 喜劇一代男』（1946年刊）の中で、「私の生れは泉州堺」「生れたのは明治10年9月6日」と本人が語っています。本名は和田久一（ひさかず）、父親は堺で弁護士を開業していましたが、久一が6歳の時に死亡。母親は堺の浄因寺の15代住職の長女で、久一は父親の死後、母親の実家の浄因寺に引き取られ仏門に入りました。幼いころから経を読み檀家まわりをしていた久一は、頓智と頭の良さで大変人気があり、一休和尚の生まれ変わりのようだとして「今一休」と呼ばれていました。

母親が大阪に出て小料理屋を始めると、久一は14歳で初めて道頓堀の浪花座で歌舞伎を見ます。その後煙草屋で丁稚奉公をはじめますが、御寮さんが芝居好きで、お供はいつも久一でした。芝居が終わって店に戻ると、その日見た芝居を身振り手振り、声まで似せて話をするので、「ほんまの芝居より面白い」と評判になり、ついには「いっそのこと役者になったらどうや」と役者の中村珊瑚郎（さんごろう）を紹介され、弟子入りすることになりました。



曾我廼家五郎劇 笑の参考書
プログラム
昭和11年4月1日初日
大阪歌舞伎座

中村珊之助（さんのすけ）として初舞台を踏んだのは明治26年（1893）、しかし芝居道は順調にいかず、住む家に困ったり、興行者にだまされたり、団員とけんかをして劇団を飛び出したりと苦勞の連続でした。

珊之助は、明治36年（1903）に 鶴屋團十郎の仁輪加

（俄：にわか…即興芝居）を見て「笑わせる芝居」について考えるようになりました。尾崎紅葉の「喜劇夏小袖」のタイトルから「喜劇」という名前にしようと決意、中村時代（ときよ）と組んで一座（前後亭左右）をつくりました。伊丹の桜井座や堺・宿院の卯之日座で興行しましたが客が集まりません。

当時はロシアといつ戦争が始まるかわからないという状況で、芝居の町道頓堀も火が消えたようになっていました。そんなとき、浪花座出演の依頼が来ます。これを機に役者名を変えることにし、講談本の「曾我兄弟」からヒントを得て、年上の中村時代が曾我廼家十郎、中村珊之助が曾我廼家五郎と名乗り、「曾我廼家十郎・五郎一座」を旗揚げしました。くしくも初日は日露戦争開戦日。苦肉の策で上演した「無筆の号外」という、読み書きができない者が号外を見てとんちんかんな解釈をして笑いをさそう芝居が大当たりし、明治39年（1906）には東京の新富座へ初出演を果たしました。しかし大阪弁が通じず大失敗、十郎とも溝がではじめ、明治が終わるころふたりは分かれてしまいました。

明治天皇崩御で芝居ができない時期に、五郎は海外の様子を見たいと思い、モスクワやロンドンに行きましたが、あちこちで苦勞し命からがら帰国。劇団名を「曾我廼家五郎一座」として興行を始め再び活躍します。五郎は「一堺魚人（いっかいぎよじん）」のペンネームで千本以上の脚本を執筆。昭和23年（1948）11月に72歳で亡くなりました。葬式は松竹株式会社が斎主となり、中座で「喜劇葬」として盛大に行われました。



「曾我廼家五郎プロマイド」（撮影年不明）



曾我廼家五郎劇絵本 プログラム 昭和14年5月1日初日 新橋演舞場

プログラム中の「一堺莊漫筆」と題した文章に、五郎が脚本を書く時のペンネーム「一堺漁人」について記述があります。大正4年に新富座で上演した狂言を見た偉いお役人から、曾我廼家の脚本を提出しろと呼び出されます。作者は誰だと問われ私ですと答えましたが、ファンの方には立派な先生が蔭に…と伝えていた手前、脚本家の名前に曾我廼家五郎と書けません。何とかほかに筆名をと考えているとお役人が五郎の俳優鑑札を見て、その表面に明記してある本籍地の堺市と本名の和田久一を接ぎ合わせて「堺一」作とせよと命令されましたが、帰宅してから「一堺」と勝手に改めたそうです。

（中央図書館地域資料担当）

司書のイチ押し

いん えい らい さん
陰翳礼讃

谷崎潤一郎 / 文
大川裕弘 / 写真
パイインターナショナル

おうち時間が増え、家の中の環境について改めて考える機会も多くなったのではないのでしょうか。私自身も家で過ごすことが増えた最中、ふと思い出したのが谷崎潤一郎の『陰翳礼讃』です。

谷崎は、『春琴抄』や『細雪』などで知られる小説家で、明治の末期から昭和中期まで小説、戯曲、随筆など様々な分野で執筆活動をしています。『陰翳礼讃』は、関東大震災を機に東京から関西に移住し、日本の古典回帰に目覚めた時期(1933年)に書かれた随筆作品です。

可能な限り電気で部屋の隅々を照らし陰翳を消そうとした西洋文化と、陰翳を認め芸術に利用した日本を比較し、建築、照明、紙、食べ物、食器、化粧などの分野で陰翳を考察しています。日本国内では、現在でも日本的な美学やデザインについて考えるうえで注目されており、戦後(1955年)にアメリカで翻訳されて以降、ヨーロッパでも翻訳され、多くの知識人や映画人に影響を与えました。

西洋から新たな文化が次々と入ってきた時代。電灯や扇風機など様々なもののおかげで生活が便利になった反面、失われてしまった日本古来の風景もあるので

はないでしょうか。この随筆では、純日本風の家を建てる際、電気コードやスイッチを隠したいと考える心理や、扇風機や電気ストーブ、トイレなど様々な箇所です。調和をとることの難しさも語られています。共感できるものがある反面、当時はそんな所が気になったのかと気がつく点もあります。現代では、和室の無い家も珍しくなく、電気もあちらこちらで煌々と光っている中、日本古来の陰翳について想像することが難しいのも確かです。

この本(パイインターナショナル 2018年)では「気配の名匠」と呼ばれる写真家、大川裕弘さんが撮影した美しい日本の陰翳を捉えた写真が掲載されており、より鮮明に当時の生活を思い描くことが出来ます。例えば、金時絵について。明るい場所です。全体を見るのではなく、暗がりです。文様の所々が光って見える様子が美しい、という文章とともに金時絵の写真を眺めることで陰翳の世界により入り込むことができるのです。

陰翳という視点を持つことで、日常の様々な風景を普段と違った見方ができるのではないのでしょうか。ぜひ、一度この本を手に取り、自然光が生み出す美を探し、陰翳に思いを馳せてみるのはいかがでしょうか。(M.Y.)



創元社 1939.12
※堺市立中央図書館内で閲覧可能



堺市立図書館電話番号一覧

中央図書館	244-3811	東図書館	235-1345	北図書館	258-6850
くすのき号	244-3811	初芝分館	286-0071	美原図書館	369-1166
堺市駅前分館	222-0140	西図書館	271-2032	人権ふれあいセンター船松人権歴史館	
中図書館	270-8140	南図書館	294-0123	人権資料・図書室	245-2534
東百舌鳥分館	234-9600	梅分館	296-0025	青少年センター図書室	228-6331
		美木多分館	296-2111	図書館カウンター堺東	232-1011
音声応答サービス	280-0415	ホームページ URL	https://www.city.sakai.lg.jp/kosodate/library/		